

エコアクション21

環境経営レポート



活動報告期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日



専門学校
静岡工科自動車大学校

作成日 令和 4年 5月 24日

目 次



必須項目である環境活動の取り組み計画と評価

・ 静岡自動車学園環境経営方針	2
・ 事業所の概要	3
・ 環境経営システム組織図	4
・ 環境経営システム（事務部門、教育部門詳細）	4
・ 環境経営システム（役割）	5
・ 主な環境負荷の実績	6
・ 環境経営目標及びその実績	7
・ 必須項目である環境経営計画の取り組み結果とその評価	8
・ 自動車整備専門学校としての環境活動の取り組み計画と評価	9
・ 令和3年度シラバスに基づく環境教育	9
・ 施設・設備に関する環境教育	10
・ その他の環境活動の取り組み実績	11
・ 問題点の是正処置及び予防処置の結果	12
・ 環境関連法規等の厳守状況	14
・ 外部から苦情等の受付状況	15
・ 環境上の緊急事態の訓練結果	15
・ 校長による評価と見直し	16



学校法人

静岡自動車学園

環境経営方針



(環境理念)

学校法人静岡自動車学園は、環境にやさしい交通社会の実現を目指す交通教育機関として、地球の環境保全や環境負荷の低減など環境に配慮した活動を目指す。

(環境方針)

1. 教育活動を通じて環境問題を意識した行動のできる学生を育成する
2. 自動車運転教習を通じてエコドライブを意識したドライバーを育成する
3. 良好な環境を保全するため環境関連法規を遵守する
4. 二酸化炭素排出量削減のためエネルギー使用量の削減に努める
5. 水資源を有効利用するため節水に取り組む
6. 資源の有効利用(リサイクル)により廃棄物削減を目指す
7. 環境に配慮した物品等の購入・使用を心掛ける(グリーン購入)
8. 生活環境の保全のため化学物質使用量の削減を目指す
9. 環境経営の継続的改善を誓約する

制定：令和元年6月30日



学校法人

静岡自動車学園

理事長 平井 一史



事業所の概要

令和3年4月1日現在

1. 事業所名及び校長氏名

専門学校 静岡工科自動車大学校
校長 岡部 剛

2. 所在地

〒420-8507
静岡県静岡市葵区宮前町52-1

3. 工科EA21リーダー、事務担当者氏名及び連絡先

工科EA21リーダー 藤池 匡人
工科事務局（事務担当者） 伏見 泰典
TEL：054-263-4666（代）
FAX：054-262-7288
E-mail：fujiike@kohka.ac.jp

4. 事業内容

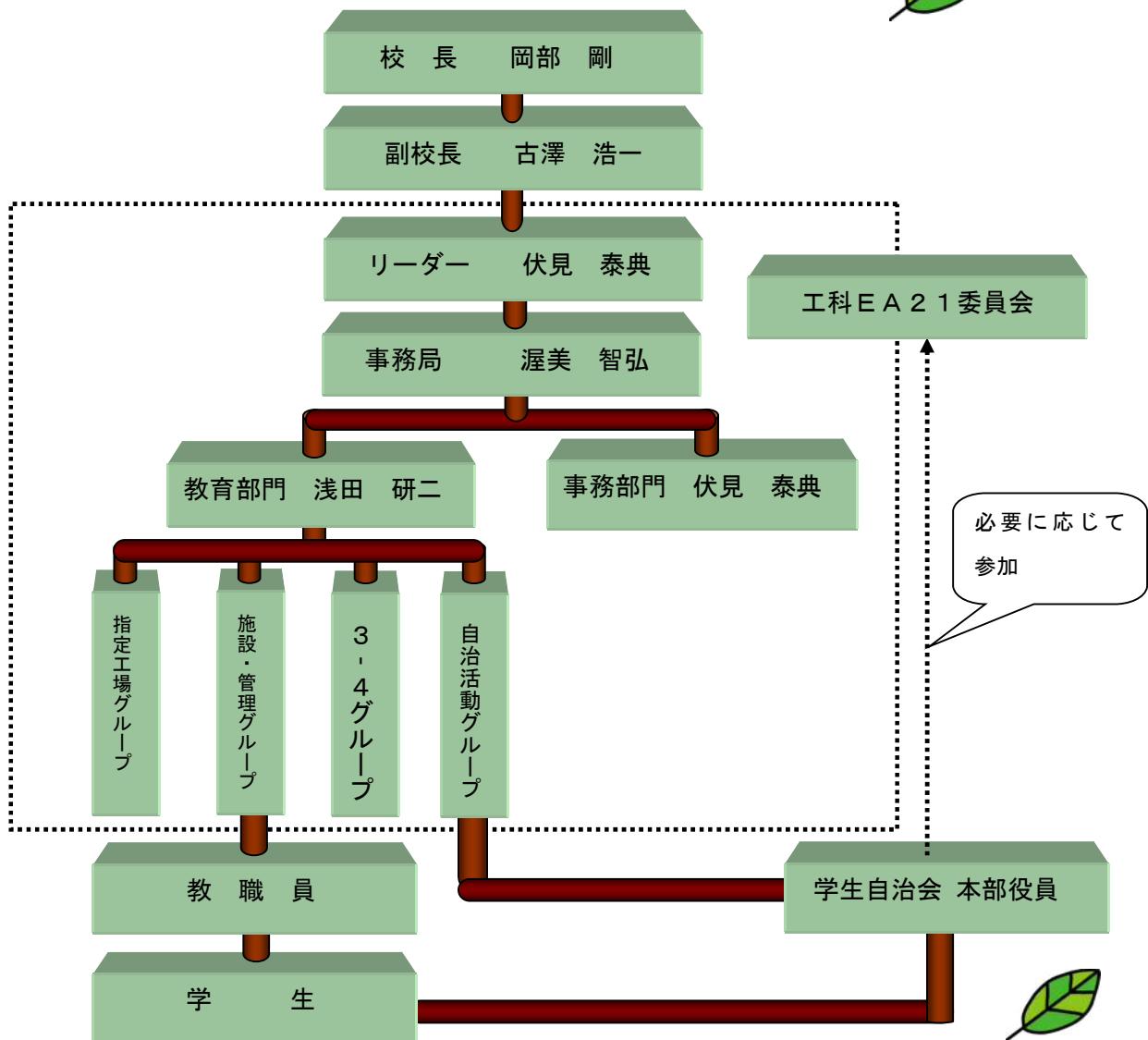
専門学校（自動車整備士養成課程）
自動車整備業（認証：静第24号、指定：中指第4836号）

5. 事業規模

在学生数 558人（令和3年4月）
従業員数 37人（非常勤講師及びパート除く）
延べ敷地面積 9,572.84 m²

6. 事業年度

活動報告期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日
データ測定期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

専門学校 静岡工科自動車大学校
環境経営システム組織図

※工科EA21委員会はリーダー、事務局、教育部門長、事務部門長及び指定工場グループ、施設・管理グループ、3-4年グループ、自治活動グループのリーダーで構成する。

事務部門、教育部門詳細

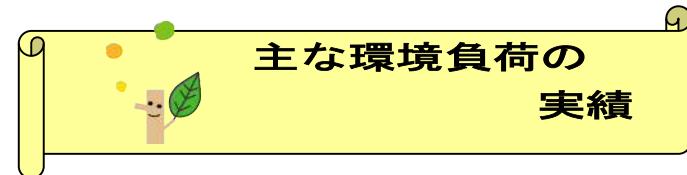
下表の（ ）がEA21委員

事務部門 (部門長 伏見泰典)	総務課	坂井、劍持、美濃部
	入試・進路課	廣石、藤池
	F D・C R推進	高柳、谷河、佐野
教育部門 (部門長 浅田研二)	指定工場グループ (リーダー五十嵐航平)	中野、梅坂、渡邊徹、山本、渡辺優、齊藤、三井、田村
	施設・管理グループ (リーダー佐藤隆之)	五十嵐、中野、山下、渡辺広、齊藤、高野、佐々木
	3-4年グループ (リーダー齊藤晃一郎)	梅澤、山本、五十嵐、中野、山内、渡邊徹、三井
	自治活動グループ (リーダー堀内寛之)	梅坂、渡辺優、兼岡、袴田、鈴木
	他 教務課	杉山、植田、西村、原、瀧、岡村、内藤

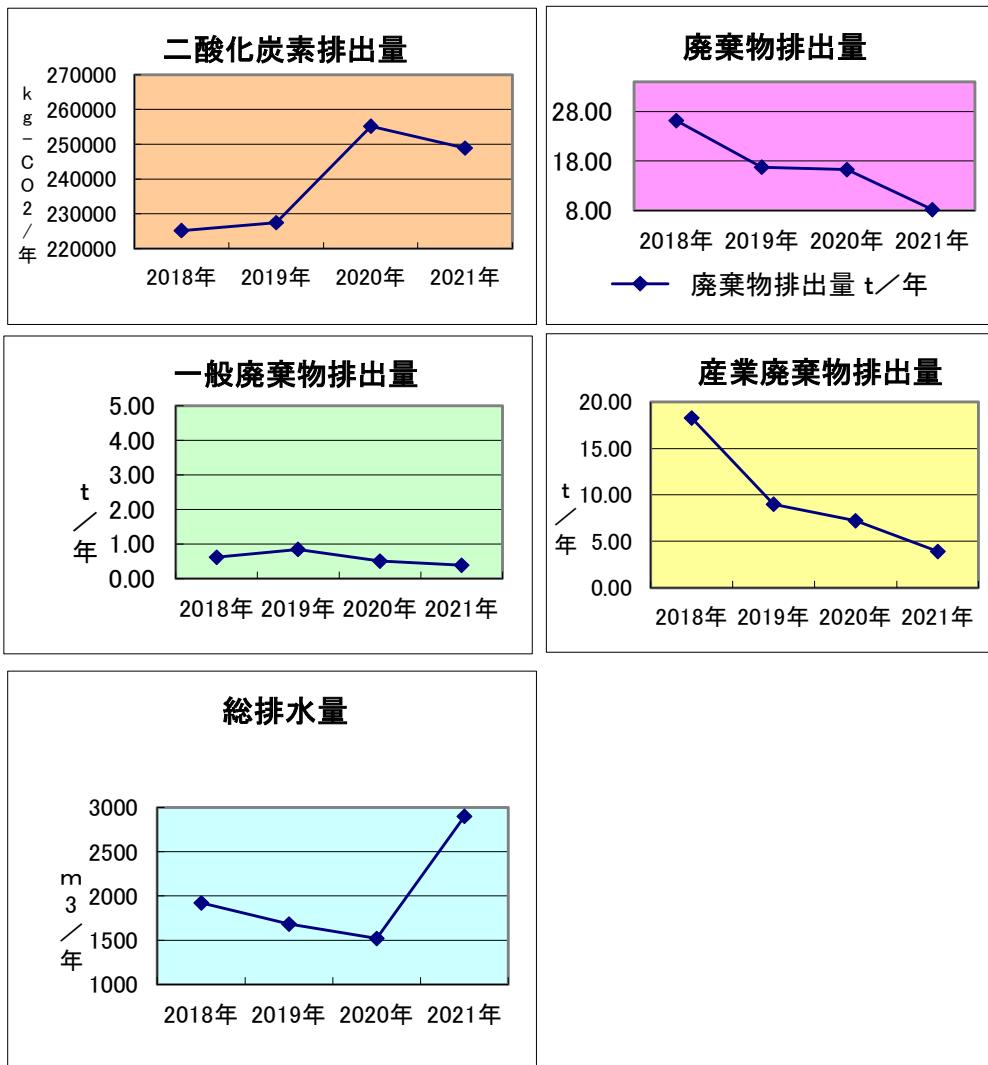


校長・副校長	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全般を総括しその最終責任を負う。 ②環境経営システムの実施と管理のために必要な経営資源を割り当てる。 ③工科E A 2 1リーダー及び委員を任命する。 ④環境経営方針に沿って、環境経営目標、環境経営計画及び環境活動レポートを承認する。 ⑤環境経営目標及び環境経営計画の相互間に不整合がある場合には、調査及び是正の指示をする。 ⑥環境経営システムの見直しを行い、システム及び環境活動に関する課題がある場合には調査及び是正の指示をする。 ⑦環境関連法規等で定めがある場合には、必要な者を任命する。
工科E A 2 1委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全般が円滑に実施されるよう運営する。 ②環境経営目標及び環境経営計画に対する自己評価を行う。 ③環境経営システムの見直しに参画する。 ④環境経営レポートを作成する。 ⑤全体のシステム進捗状況を共有する。 ⑥学生自治会と協調し環境負荷低減に努める。
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムを運用・管理する。 ②各部門を総括する。 ③環境経営システムの見直しのため及び改善の基礎として、校長に環境経営システムの成果を報告する。 ④問題発生時は是正を指示する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムの維持・改善を行う。 ②是正及び予防処置に関する援助・推進を行う。 ③関連部門に対する環境課題の提起・勧告・援助を行う。 ④学校全体の環境に関する教育訓練カリキュラムを教育部門長と共に作成する。 ⑤工科E A 2 1委員会事務局業務を行う。 ⑥環境経営レポートを作成・取りまとめをする。
部門長	<p>部門長共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自部門の環境管理に関する全責任と全権限をもつ。 ②工科E A 2 1委員会において環境経営システムに関する課題解決に協力する。 ③自部門の環境管理について代表者への報告・提案を行う。 ④自部門に対して是正及び予防処置について、調査及び是正の指示をする。 (事務部門長) ①遵守しなければならない環境関連法規及びその他の環境関連要求事項を整理し、一覧表にまとめ、施設の新增設の届出・諸報告及び関連官庁との折衝を行う。 ②地域社会との環境に関する折衝及び苦情に関する対外折衝を行う。 ③緊急事態(火災・爆発・地震・風水害)発生時の校内外への連絡をする。 ④敷地境界他、キャンパス全体の管理(電気・ガス・水・購入品・廃棄物等)を行う (教育部門長) ①環境意識の高い学生を育成する。
グループリーダー	<ul style="list-style-type: none"> ①担当職務の環境管理に関する全責任をもつ。 ②目標を達成するための環境経営計画を立案し実施する。 ③是正及び予防処置の立案・実施を行う。 ④自グループの教職員に対し、環境管理に関する教育訓練を行う。 ⑤自職場で管理する環境設備の保全を行う。 ⑥自職場の環境管理について部門長への報告・提案を行う。

主な環境負荷の実績



項目	単位	2018年	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素排出量 (対象: エネルギー総量)	Kg - CO ₂ / 年	225, 246	227, 531	255, 259	248, 982
廃棄物排出量	t / 年	26. 11	16. 70	16. 26	8. 11
一般廃棄物排出量	t / 年	0. 61	0. 84	0. 50	0. 38
産業廃棄物排出量	t / 年	18. 26	8. 99	7. 21	3. 90
総排水量	m ³ / 年	1920. 00	1680. 00	1516. 00	2901. 00

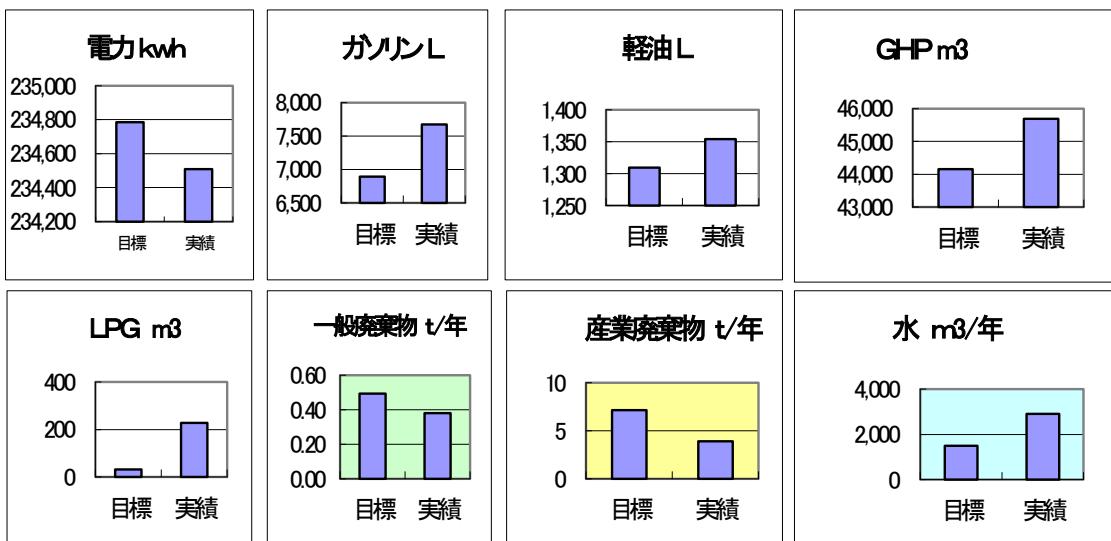


- * 過去 4 年間の推移となります。
- * 2018 年とは 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日のことである。
- * 2019 年とは 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日のことである。
- * 2020 年とは 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日のことである。
- * 2021 年とは 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日のことである。

環境経営目標 及びその実績



項目	年度	基準年数量 (2020年)	×比 (2020年)	2021年		2022年	
				(目標)	(実績)	判定	(目標)
電力の 二酸化炭素排出量 削減 排出係数： 0.547	kWh	247,143.00	0.95	234,785.85	234,510.00	○	232,164.90
	Kg-CO ₂ /年	135,187.22	0.95	128,427.86	128,276.97	○	126,994.20
自動車燃料 (ガソリン、軽 油) の 二酸化炭素排出量 削減	ガソリン L	6,961.90	0.99	6,892.28	7,673.86	×	7,290.17
	軽油 L	1,322.71	0.99	1,309.48	1,354.25	×	1,286.54
	Kg-CO ₂ /年	19,564.20	0.99	19,368.56	21,297.33	×	20,232.46
その他 (GHP、LPG) の 二酸化炭素排出量 削減	GHP m ³	46,486.00	0.95	44,161.70	45,685.00	×	43,400.75
	LPG Kg	32.53	0.99	32.20	227.91	×	216.51
	Kg-CO ₂ /年	100,507.34	0.95	95,481.97	99,363.34	×	94,395.17
二酸化炭素排出量 合計	Kg-CO ₂ /年	255,258.76	0.95	242,495.82	248,982.45	×	236,533.33
一般廃棄物の削減	t/年	0.50	0.99	0.50	0.38	○	0.38
産業廃棄物の削減	t/年	7.21	0.99	7.14	3.90	○	3.86
節 水	m ³ /年	1,516.00	0.99	1,500.84	2,901.00	×	2,755.95
化 学 物 質	—	適正管理	1.00	適正管理	適正管理	○	適正管理



* 令和3年の実績は4月1日～3月31日までの1ヶ年のものである。

必須項目である環境経営計画の
取り組み結果と評価

取り組み計画	達成状況		単位	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
電力の削減 不要照明の消灯 冷房 26~28°C、 暖房 20~22°Cに設定 定時退社の日設定 (2回／月)	目標 実績	128,427.86 128,276.97 99.9	Kg - CO ₂ Kg - CO ₂ %	目標は達成できた。 節電への意識が向上していると考えられる。
				コスト面のこともあるので、気を緩めずに引き続き、不要照明の消灯を行う等、さらなる節電を目指したい。
自動車燃料（ガソリン、軽油）の削減 エコドライブの推進 電気自動車の優先利用	目標 実績	19,368.56 21,297.33 110.0	Kg - CO ₂ Kg - CO ₂ %	目標は達成できなかった。 行動制限緩和により使用が増えたと考えられる
				引き続き、ハイブリッド車、燃料電池自動車を積極的に使用すると共に燃費を気にした運転を心がける。ノーカーデーも推奨したい。
その他の燃料（GHP、LPG）の削減 冷房 26~28°C、 暖房 20~22°Cに設定 塗装乾燥ブースの効率的な使用	目標 実績	95,481.97 99,363.34 104.1	Kg - CO ₂ Kg - CO ₂ %	目標は達成できなかった。 コロナ禍による換気が要因と考えられる。
				不必要的冷暖房はしないように心がける。冬はつなぎの上に上着の着用が認められた為、徹底することで設定温度（20~22°C）遵守を心がけたい。他、早めの帰宅を推奨したい。
一般廃棄物の削減 裏紙の使用 ミスコピーの防止 雑紙の仕分け	目標 実績	0.50 0.38 76.0	t t %	目標は達成できた。 リモート授業により紙媒体が減ったと思われる
				今後も意識を高めるべくポスターなどで啓蒙活動を続けていくと共に、裏紙の使用や雑紙の分別等を徹底したい。
産業廃棄物の削減 プラゴミを出さない工夫 過剰包装を断り、梱包物を業者に持ち帰ってもらう	目標 実績	7.14 3.90 54.6	t t %	目標は達成できた。 遠隔授業の増加が一因ではないかと思われる。
				今後も現状維持ができるようにしていきたい。
節水 無駄水を出さない	目標 実績	1,500.84 2,901.00 193.3	m ³ m ³ %	目標は達成できなかった。 前年の倍近くまで増えているが原因は不明。
				節水に心がけ、毎月々の変化をしっかり見極め使用量が減らせるよう心がけていきたい。
化学物質 管理簿による適正管理	適正管理	適正管理	—	台帳にて適正管理をしていた。
				次年度も、引き続き適正に管理を行う。

基準年度 : 2020年

追記（今後の方針）

※ 生活様式の変化で目標が適切でなくなってしまったが、本年度においては目標設定がコロナ禍様に改善されている為、改めて目標を達成できるよう環境活動に取り組んでいきたい。

自動車整備専門学校としての 環境活動の取り組み計画と評価



教育

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
学生に対する環境教育の実施	目標 実績	100 下のとおり	%	年度を通して計画どおり全教育を実施した テキストを用いた環境教育のみにとどまらず、常に環境意識の高い学生が輩出するよう標語を募集するなど日常的な環境教育も心がける。

・令和3年度シラバスに基づく環境教育 ※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科1年	特別学習	3	5/28, 31, 6/1	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車システム工学科2年	環境経営システム	9	8/24 ～ 12/6 (12/17)	地球規模の環境保全とその必要性 環境保全の現況と必要性、環境保全への取り組み 資源の有効利用 資源の有効利用による社会的貢献 資源有効利用の要件、再利用部品の活用 リビルト部品、中古部品 産業廃棄物処理の影響と対応 産業廃棄物とは、マニフェスト制度とは 使用済自動車の問題とマニフェスト制度 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 エアバック、バッテリ、タイヤ、冷却水(LLC) フロン回収・破壊の処理 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 カーエアコン用特定フロン、代替フロン P R T R 法 整備事業場等の固定施設における環境保全など 本校の環境管理システムについて
自動車システム工学科3年	総合診断 ・環境 ・安全	15	11/22 ～ 12/16	フロン回収破壊法・自動車リサイクル法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 リサイクルの現状
自動車システム工学科4年	行事体育	3	1/7	
自動車整備科 1年	特別学習	3	5/ 17, 18, 19	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車整備科 2年	環境経営システム	9	8/24 ～ 12/6(12/7)	システム工学科2年生と同様
国際オート メカニック科 1年	特別学習	4	6/7, 8 (6/7, 11, 8/4)	エコアクション21について 地球規模の環境問題
国際オート メカニック科 2年	特別学習	3	11/30	エコアクション21について 地球規模の環境問題

科・学年	科 目 名	時 間	実施日	内 容
国際オート メカニック科 3年	環境経営 システム	10	11/8, 9, 10 , 18 (2/21, 22)	システム工学科 2年生と同様
自動車システム工学科 3年 (ボディコース)	環境保全	3	4/13	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 3年 (開発コース)	特別学習	3	4/22	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 4年 (開発コース)	特別学習	3	4/22	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準

・施設・設備に関する環境教育（油水分離槽関係）

※ 1時間は 90 分

科・学年	科 目 名	時 間	実施日	内 容
自動車システム工学科 1年	サスペンション実習	1	3/3	特定施設とは 油水分離槽の位置 油水分離槽の構造と機能 油水分離槽の点検と清掃 緊急時の対応
自動車システム工学科 3年	車両検査実務実習 2		10/1	
自動車整備科 1年	サスペンション実習		3/3	
国際オートメカニック科 2年	トラック実習		8/27, 9/3, 12/10	
自動車システム工学科 3年 (開発コース)	点検車検実習 1		1/27	

・施設・設備に関する環境教育（エア・コンプレッサ関係）

※ 1時間は 90 分

科・学年	科 目 名	時 間	実施日	内 容
自動車システム工学科 2年	大型自動車実習	1	5/8, 7/13	特定施設とは エア・コンプレッサの機能 エア・コンプレッサの取扱者 エア・コンプレッサの運転時間 エア・コンプレッサの保守・点検 緊急時の対応
自動車システム工学科 3年	車両検査実務実習 1		5/10, 26, (6/7)	
自動車整備科 2年	大型自動車実習		6/22	
国際オートメカニック科 2年	エアシステム実習		2/18, 25, 3/3	
国際オートメカニック科 3年	自動車総合実習		7/13, 15	
自動車システム工学科 3年 (ボディコース)	環境保全		4/15	
自動車システム工学科 3年 (開発コース)	点検車検実習 1		1/28	

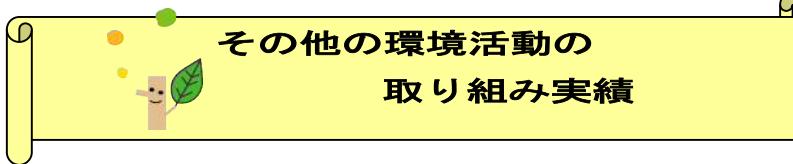
・施設・設備に関する環境教育（塗装ブース関係）

※ 1時間は 90 分

科・学年	科 目 名	時 間	実施日	内 容
自動車システム工学科 3年 (ボディコース)	環境保全	1	4/13	特定施設とは 塗装ブースの取り扱い 塗装ブースの保守・点検 緊急時の対応

職員

取り組み計画	達成状況	単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容	
通勤車両からの二酸化炭素排出削減 月2回ノーカーデーの実施	基準年度 排出削減量 目標 (実績) 排出削減量 削減率	2020 3.0 100 1.3 3.0	t % t %	削減量を基準年 100%目標としていたが、達成することが出来なかった。 この取組は排出量削減に大きな効果があると判断できることから今後も継続して実施していく。昨年はコロナ禍で電車通勤が難しかった様に感じるので、新しい生活様式の中でしっかりと取り組んでいきたい。



・学生自治会による 5S4R運動の推進

5S4Rの唱和実施（毎朝のショート・ホーム・ルーム時）

環境標語 優秀作「排気ガス 無くして綺麗な 青空に」（令和3年7月）

クラス委員による校内5S点検実施（隔週）

・教室エアコンの温度管理

夏季26～28°C、冬季20～22°Cに設定

・教室エアコンフィルタの定期清掃

7月、12月、3月に実施

・塗装乾燥ブース、塗装乾燥装置の維持管理

フィルタ点検清掃又は交換 7月、12月、3月に実施

・集塵機の維持管理

6月、9月、12月、3月に点検実施

・側溝清掃

C棟1階 7月、12月、3月に実施

B棟2階 7月、12月、2月に実施

B棟1階 毎月実施

・校用車（乗用車）のエコ化及び電気自動車の積極利用

校用車（乗用車）6台中、燃料電池自動車、ハイブリッド、
など計2台 （以下は校用車の一部です）



ハイブリッド：プリウス



燃料電池自動車：トヨタ ミライ

静岡市内の移動は「燃料電池自動車：トヨタ ミライ」を優先利用

・ソーラー発電

C棟屋上に最大出力30kWのソーラーパネルを
設置し発電した電気で電気自動車に充電を行う他、
本校の使用電力の一部を賄う



最大出力30kWのソーラーパネル



電気自動車の充電スタンド

問題点の是正処置および予防処置の結果 ならびに次年度の取り組み



1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については、目標値をわずかに下回ることができた。コロナ禍による新しい生活様式が定着したことが要因と考えられるが、コロナ禍以前の水準には及んでいない。換気（窓を開けた状態）をしながらエアコンをかけていたことなど、コロナ禍以前とは違う生活の形が定着しつつあるため、今まで以上に節電に対する意識を高く持っていただくことが重要であると考えられる。とはいえ、夏の猛暑などの気候的要因から熱中症の影響を受けやすいので、教場での空調使用はやむを得ない面があるため、本年度においては引き続き「使用していない教場の消灯」、「教場の効率的使用」を訴える処置を行いつつ、昨年度よりは全体として削減していきたいと考える。また、各教場のプロジェクタやパソコン等の細部に渡っての節電にも意識して取り組む必要がある。
- (2) 自動車用燃料であるガソリン・軽油については、基準年度よりも使用量が増加しており目標を達成することができなかった。コロナ禍による新しい生活様式が定着したことや制限緩和により、コロナ禍以前の教育活動が徐々に戻ってきていることが要因として考えられるが、今後も引き続き、ハイブリッド車、燃料電池自動車、電動アシスト自転車および通常の自転車などの活用を推進していく。また燃費も意識した運転を心掛けるようにしていく。本年度は前年ベースで適切な目標設定をしていきたい。
- (3) その他のGHPとLPGの使用量はともに目標値より上回ってしまった。自動車用燃料と同様に、コロナ禍による新しい生活様式が定着したことや制限緩和により、コロナ禍以前の教育活動が徐々に戻ってきていることが要因として考えられる。冬場においてはつなぎの上に上着の着用が認められたため十分な対策で対応したい。「使用していない教場の空調オフ」は、引き続き継続しながら、昨年度を少しでも下回るよう意識して取り組む必要がある。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については目標より大きく削減することができた。コロナ禍の生活様式の変更によりごみ箱を撤去したことや、古紙リサイクルの推進が大きく影響していると考えられる。今年度も引き続きゴミと雑紙の分別徹底や循環資源量も増加させていくことに努め、ミスプリント等の削減にも引き続き取り組んでいきたい。
- (2) 産業廃棄物についても一般廃棄物同様に目標より大きく削減することができた。コロナ禍によるリモート授業の増加（対面授業の減少）により、教育活動の実施方法が大きく変化していることが影響していると考えられる。本年度の目標は昨年度が基準となるが、全体の量を削減するため分別をしっかり行い適切な排出を心がけていきたい。



3. 節水について

節水については、基準年度比 193.3%と目標をはるかに超える使用量となってしまった。水資源量の実績データより、令和3年10月度は約2.3倍、12月度は約4.2倍とそれぞれ基準年度を大幅に上回っていることが分かる。その後の2月度は基準年度並みに落ち着いていることから、令和3年度の秋から冬の時期にかけ一時的に何らかの要因で使用量が大幅に増加したと考えられるが、詳細は不明である。令和4年度の同時期の推移を注視し、原因が判明するならば適切に対応していきたい。

4. 通勤車両からの二酸化炭素排出削減

月に2回のノーカーデーを個人で実施日を設定し、容易に達成しうる環境を作ったことにより二酸化炭素の排出量削減に大いに期待していたが昨年度は目標を達成できなかった。原因としてはコロナ禍で電車通勤が難しかった事が考えられる。自転車という手段もあるが遠距離の職員には難しい。新しい生活様式の中で何ができるかを考えながら取り組んで行く必要性を感じる。

5. 学生に対する環境教育の実施

環境テキストを用い、計画どおり教育を実施することができた。毎年毎、必要な部数を作成するようになっているので、令和4年度用テキストには世の中の状況に合わせSDGsに関する記載を追加し、有意義な参考資料とした。



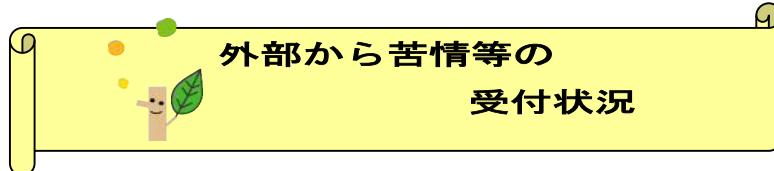
環境関連法規等の 遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりである。

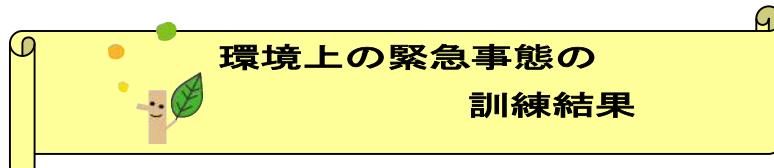
分類	適用法令	届出施設	運用(遵守事項)	届出状況 運用状況
水質	水質汚濁防止法、 同施行令、同施行規則	油水分離槽5基	-	○
	下水道法、同施行令	特定施設使用届	-	○
大気	県条例(粉塵)	集塵機3基 塗装乾燥ブース1基	-	○
騒音	騒音規制法	-	第2種(住居)区域の騒音基準 の順守	○
	県条例(騒音)	エアコンプレッサー2基 エアコン用冷凍機17基 集塵機3基	-	○
振動		対象外	対象外	-
悪臭	悪臭防止法	-	臭気指数10	○
土壤汚染		対象外	対象外	-
地盤沈下		対象外	対象外	-
フロン	フロン排出抑制法	-	GHPエアコン点検履歴保管	○
消防	消防法、市火災予防条例	少量危険物貯蔵所1箇所	-	○
化学物質	PRTR法	-	取扱が少量(1t未満)で対象 外だが管理している	○
廃棄物	廃掃法	-	産業廃棄物管理表に従い適 正処理	○
	自動車リサイクル法	-	使用済み自動車の適正事業 者への引き渡し	○
	建設工事に係る資材の再資源 化等に関する法律、同施行令	-	解体時に届け出る	○
その他	8都県市環境確保条例	-	校用車は対策済み車両	○
	道路運送車両法	認証工場、指定工場	-	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、逸脱はなかった。

また、今年1年間、違反や訴訟もなかった。(令和4年3月現在)



今年1年間、外部からの苦情はなかった。(令和4年3月現在)



ガス溶接時の火災事故防止およびバッテリ充電時の爆発事故と火災事故の防止を図るために下表の授業の中で訓練を実施した。※（ ）は実施日

科・学年	ガス溶接時訓練	バッテリ充電時訓練
自動車システム工学科 1年	自動車点検実習 (1/19, 3/7, 3/11)	電気回路実習 (6/8, 15, 7/6, 13)
自動車システム工学科 2年		ガソリン・エンジン制御実習 (6/1, 11, [6/18], 7/2, 13)
自動車システム工学科 3年	高度シャシ制御実習1(10/1)	HV・HEV 実務実習 (10/1)
自動車整備科 1年	自動車点検実習 (1/21, 2/2, 3/9)	電気回路実習 (5/25, 7/19)
自動車整備科 2年		ガソリン・エンジン制御実習 (4/22, 5/7) [5/27]
国際オートメカニック科 1年	自動車点検実習 (1/12, 2/25, 3/1) [3/7]	電気回路実習 (5/31, 6/25, 7/27)
国際オートメカニック科 2年		ジーゼルインジエクション実習 (5/17, 31, 7/21, 26)
自動車システム工学科 3年 (開発コース)	工作実習 (10/8)	エンジン実習 (10/11)

[] 内は再試験日

訓練の実施内容

ガス溶接時訓練	バッテリ充電時訓練
ガスボンベ等の保管方法 溶接作業を始める前の片付け 作業中の注意事項 ガスボンベ等の機器の取り扱い方法 引火した場合の対応方法 バケツリレー、消火器の取り扱い方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認	バッテリ充電方法、注意点 希硫酸の特性、引火性ガスの特性 バケツ、消火器の設置場所確認 希釀又は中和の方法 爆発した場合の対応方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認 廃バッテリの保管

※ 緊急時訓練（ガス溶接、バッテリ充電）以外に火災非難訓練（6/2）及び消防用設備の取扱要領の確認（11月～12月）を実施した。



ガス溶接時訓練
(バケツリレー)



バッテリ充電時訓練

校長による 評価と見直し

令和3年度は、昨年度同様「EA21活動を推進し、エネルギー削減目標を達成」を学校全体の目標とし、前年比-5%を達成するようEA21活動を実施したが、残念ながら多くの項目で前年の実績を下回り、目標を達成することができなかった。

まず電力の使用についてはCO₂排出量が前年度比5%削減の目標に対し、実績は約0.1%減という結果であり、ほぼ前年度と同じ水準であった。しかし令和3年度は実習棟の照明設備をすべてLED照明設備に切り替えたことを考慮すれば、削減量が前年並みというのは良い結果とはいえず。実質悪化したと捉え、学校全体の取り組みとして活発な活動ができていないと判断する。

自動車用燃料であるガソリン・軽油の使用量は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により使用量が大幅減となった前年度から、令和3年度は徐々にではあるが募集活動などの活動が回復したことが10%増加の要因となったものと推測する。

都市ガス及びLPGの使用量は約4%の増加となったが、都市ガスについてはコロナ禍により窓を解放した状態でのGHPエアコンの使用が常態化したこと、及び昨年度は登校する学生数が増えたことがその原因であると思われる。またLPG使用量の増加については、ボディエンジニアコースの学生数増加によりカスタムカーを2台製作するなど、塗装乾燥ブースの稼働が増えたことが要因である。

現在、電気、燃料、ガスなどのエネルギー価格はロシアによるウクライナ侵攻の影響により高騰しており、エネルギーの使用量の増加は学校経営を圧迫する要因となると思われる。

今後は教職員が使用していない教場の空調OFFや教場の消灯など、エネルギー使用量削減の取り組みを率先して行い、学校全体として省エネルギー活動を推進したい。

廃棄物の排出量に関しては、一般廃棄物及び産業廃棄物とも大幅に減少したが、GoogleクラスマップなどのIT活用により紙媒体の資料が減少したことが要因の1つであると推測する。今後もITを活用し「文書管理の電子化」を推進するとともに、「ミスプリント削減」によるコピー用紙の削減など、廃棄物の削減に取り組んで欲しい。

水の使用量については前年度と比較し9.8%と大幅に増加したが、これは活動年度に発生した給水管からの漏水が主な要因と考えられる。ただし使用量については前年比の倍近く増加しているため、漏水以外の要因についても引き続き調査、検証を行う必要がある。

通勤車両からの二酸化炭素排出削減については、月に2回のノーカーデーを設定し活動を行ったが、残念ながら目標達成には至らなかった。コロナ禍により電車通勤よりマイカー通勤のほうが安全であるという認識の高まりがその要因であると思われるが、健康増進のため自転車通勤を推奨するなど、できる範囲の中で目標を達成するよう努めていきたい。

最後に環境テキストについては、昨年度の反省を踏まえ新たにSDGsの内容を盛り込み、環境意識の高まりを反映した内容に改訂を行った。現在、世界的にSDGsの取り組みが広がり、国内の企業や学校にもその活動が広がっており、当校においてもSDGs活動を積極的に推進する必要がある。

今後も「環境意識の高い人材の育成」という目標達成に向け、教職員が主体となってエコアクション活動を推進し、職員、学生が一体となった活発な活動により、その上位目標であるSDGsの活動へとつなげていきたい。

専門学校 静岡工科自動車大学校

校長 岡部 剛